

<メディアウォッチ>

ニコニコ動画の「ノン・ジャーナリズム」宣言は強烈な逆説

上出 義樹

朝日新聞社の月刊「ジャーナリズム」3月号に、話題のインターネット動画サイト「ニコニコ動画」の「ノン・ジャーナリズム」宣言の意義を、同サイトの基本的なポリシーと併せ、経営者自ら詳述する興味深い記事（論稿）が掲載されている。

杉本社長自らが「ニコニコニュース」の理念と既存メディアとの違い詳述

大手各紙は最近、ソーシャルメディアブームに乗るようにツイッターを活用したり、電子版に力を入れたりしている。しかし、ネットメディアのレベルとしては、個人もメディアもユーザーも平等・公平にサポートし、徹底的にオープンな情報の発信と共有のシステムが機能する「ニコニコ動画」には、はるかに及ばない。

同サイトには、既存メディアには真似のできない話題の人物の長時間ノーカットインタビューなど独自ニュースや特ダネも少なからず登場する。

その同サイトを経営者があえて「ノン・ジャーナリズム」と呼ぶのは意味深長である。それは、しばしば権力者と癒着し、重大な冤罪報道なども十分検証されない日本のマスメディアのエセ・ジャーナリズムへの強烈なパラドックス（逆説）と読み取れる。

マスメディア不信の理由を考えるヒントにもなりそうな「宣言」の主要な内容を具体的に見ていこう。

情報は平等・公平にサポートし全てをありのままに伝える

注目の記事は、「ニコニコ動画」を運営する株式会社ニワンゴ（従来運営してきたドワンゴ社の系列企業）社長の杉本誠司氏が寄稿。同サイトのサービスの一つである「ニコニコニュース」の理念などが8ページにわたり綴られている。

記事のタイトルには「『ノン・ジャーナリズム』を宣言したニコニコニュース…」の字句が並ぶが、それだけではなく、同サイトの性格や役割を明確にするために昨年末に発表した「ニコニコニュース・ポリシー宣言」の主なポイントを次のように説明している。

- ① ネットを使い発信する個人、メディアなどを、動画配信、生放送、ブログなど様々なツールで平等にサポート。
- ② 基本的にはこれらの情報でニュースを構成し、原則として独自ニュースは制作・発信しないが、マスメディアが扱わないニュースは例外として独自の情報も発信。
- ③ 中継、会見等の生放送は一切編集せず、全てをありのまま伝え、全ての情報をネットユーザー全体で共有。

中立的な「プラットフォーム」の役割が基本的機能

その上で杉本氏は、本格的な双方向機能が果たすメディアの大切さを指摘。「プラットフォームとして中立的で過剰な意思を持たない機能」が期待される「ニコニコニュース」は、「ポリシー宣言とともにノン・ジャーナリズムを肯定し、新たなメディアとしての役割を担うべく前へ進む」と述べ、論稿を結んでいる。

上から目線で取材プロセスを明かさない閉ざされた既存メディア

メディアの性格が違うので単純に比較はできないが、まるで自ら取材したように当局の発表情報を垂れ流し、ニュースの取材プロセスも外から見えないエセ・ジャーナリズムの既存メディアに比べると、国民目線で書かれた「ニコニコニュース」の宣言は、公正で透明性の高い仕組みがよくわかる。

国民目線からは客観性の高い「ニコニコ」の方がジャーナリズム的？

福島原発事故報道で国民の不信が一気に高まり、その後も大誤報や冤罪報道などを繰り返す「上から目線」の既存メディアには残念ながら、ジャーナリズムとして期待する余地は少ない。むしろ、杉本氏が「ノン・ジャーナリズム」と位置付け、透明性・客観性が高い「ニコニコニュース」の方が逆に国民目線からは、事実を事実として伝える本来の「ジャーナリズム」に近いのではないか。

一方、既存メディアにとっては、ネットユーザーを含めた国民の目がますます厳しくなる中で、これからのネット時代とどう向き合い、どのような新しいサービスやビジネスモデルを提示できるのか。容赦なき生き残りが問われている。

(かみで・よしき) 北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士課程(新聞学専攻)在学中。